

## 癌特異的発現膜タンパク質である LSR、GPC1 の機能解析

卵巣癌をはじめとする癌のため当院に入院・通院され、研究協力されていた患者さんの診療情報および組織、血液を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院され、研究協力されていた患者さんの診療情報および血液を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願い申し上げます。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、研究責任者までご連絡をお願いします。

### 1. 研究の対象

西暦 2009 年 1 月より 2017 年 8 月 31 日までの間に、当院で上記癌の治療のために入院または通院して診療をうけ、上記疾患に関連する研究協力に同意し、組織、血液をご提供頂いた方。

### 2. 研究目的・方法

卵巣癌は婦人科悪性腫瘍の中では治療に難渋する疾患の一つで、ここ 20 年以上も予後を劇的に改善する治療法が開発されていない、癌の 1 つです。最も頻度が高い高異型漿液性癌は初回化学療法(タキサン製剤+プラチナ製剤)に対して感受性を示しますが、再発するとその後の治療法に難渋します。また明細胞癌は欧米に比して日本で多く、進行癌が少ないながらも初回から上記治療に抵抗性を示す癌です。その他にも、同じく婦人科癌における子宮体癌や子宮頸癌、上部消化管における食道癌や胃癌、頭頸部における膠芽腫、呼吸器における小細胞癌等も初回、もしくは再発時に有効な治療法のない癌です。これらの癌に対する新規治療法の開発のために、癌特異的な発現タンパク質の機能解析と標的分子に対する新規治療薬の開発が、予後の改善に寄与すると思われました。

そこで、本研究は治療効果が出にくい方もいらっしゃるため原因の特定のため研究を行います。

我々はこれまでにタンパク質の解析により、LSR と GPC1 が婦人科癌(卵巣癌、子宮体癌、子宮頸癌)、上部消化管癌(食道癌、胃癌)、頭頸部癌(膠芽腫等)、肺癌(小細胞癌等)で高発現であること発見しました。この研究の目的はこれらの癌に特異的に発現するタンパク質である LSR と GPC1 の機能の解析とそれら標的分子に対する新規治療法の開発です。

手術時に切除した組織の病理学的検査後の余剰分を 10g 採取します。また病理診断用に作成されたパラフィンブロックから作成された切片を使用させていただきます。診察時に血液を余分に 8ml 採取させていただきます。

これらのタンパク質の発現を、患者さん組織および患者さん血清を用いて、ウェスタンブロット法などの手法を用いてその発現量を解析します。臨床情報と照会し、発現と予後の関係、癌の早期診断の可能性等を検討します。またこれらのタンパク質を標的とした新規治療薬を開発し、その効果を検証します。

患者さんの検体を直接解析し、新規治療薬の開発に結び付けることは、社会的貢献度も大きく社会的意義も大きいと考えます。

研究期間は倫理委員会承認日から 2027 年 03 月 31 日までです。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、氏名、カルテ番号 等

試料：組織、血液

### 4. 外部への試料・情報の提供

高知大学、大阪大学で採取された試料と情報を外部へ提供する予定はございません。

### 5. 研究組織

高知大学医学部附属病院 仲哲治

大阪大学医学部附属病院 木村正

### 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

高知大学医学部附属病院免疫難病センター・仲哲治

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

電話：088-888-2025

ファックス：088-888-2032

研究責任者：

高知大学医学部附属病院免疫難病センター・仲哲治

研究代表者：

高知大学医学部附属病院免疫難病センター・仲哲治